教壇実習報告　グループ 4（日本語教育）

同徳女子大学校大学院
倉持香　西岡麻衣子　柳川紘子　粟飯原美智　張恵貞

1. はじめに

本グループは、主メンバーの研究分野である交流学習と協働学習の 2 つの学習形態の特徴を活かした新しい授業を提供することで、学習者へ日本語の運用能力のみならず、文化的多様性の認識と社会的協調性を促すことができるのではないかという仮説を立て、教壇実習に臨むことにした。

交流学習とは、李（2002）の提唱する総合的日本語教育[1)]の一環であり、「言語文化行動に対する認知的意味の理解[2)]」を養う学習形態として、言語と文化の学習、ひいては異文化理解学習に効果的な学習方法だとされている。つまり異なる文化背景の人々と接し、その言語文化行動から得られるすべての情報を意味として総体的に捉え、その文化の行為体系と結びつけて解釈することは、異文化また自文化の構造的な理解を促し、真の意味での文化的多様性の認識へと導くことが期待される。

また協働学習とは、ジョージ・ジェイコブズの定義にあるように「生徒がさらに効果的に一緒に勉強するのを手助けするための原理と技法」であり、「小グループ」ということばを使用しないことにより「協同学習は小グループを超えた価値がある教授法」とされている。さらにイ・ヒド（1997）は、「競争学習と個別学習の欠点を補完し、すべての学生に学業達成だけでなく、望ましい社会的で情緒的発達を促す」学習方法であるとしている。

交流学習と協働学習は、「相互作用」という共通点があるため、両者混在の授業は多々見られるが、どちらか一方の学習形態が強調され、両者を同程度に重視され組み立てられる授業は新しく、また実験的な試みだと考える。

2. 授業目標

教師側の授業目標は以下の 4 つを設定し、学習者にはクラス全体目標として、①～④を提示した。

1. 既習日本語の実際使用の場とする。
2. 文化の多様性に気づき、多文化を受け入れる姿勢を養う。
3. 個と個の連帯感を深め、社会的協調性を養う。
4. 日本語学習の動機付けを高め、自律学習の素養を養う。

<学習者に提示したクラス全体目標>

①習った日本語をどんどん使ってみる。
②グループ活動に積極的に参加する。
③交流を通じて、いろいろな考えや文化を理解する。
④これからの勉強に役立つことを見つける。

3. 教案

担当授業 2 日分の教案は以下の通りであるが、第 2 日目の教案は第 1 日目の授業後のジョイントゼミでのフィードバックを受け、テーマおよび交流グループ活動を 2 段階に設定するなど（初めは国別グループ活動、次に混成グループ活動）急遽大幅に変更された。

第 1 日目

～分	流れ・テーマ	活動内容	備　考
授業前		☆リラックスした雰囲気を作るため韓国の音楽をかけておく。	・名札を配る。 ・机／機材の最終チェック
5	オリエンテーション	①2 日間の授業でのクラス全体の目的・目標をわかりやすく伝える。 ②全体スケジュールを伝える。 ・交流グループ活動① 「身体を使って楽しく勉強」 ・交流グループ活動② 「テーマについて皆で話そう！」 ③個別学習目標をシートに記入し提出する。	・ppt を使用して説明する （担当：栗／西・倉） ・学習目標シートを配布し回収する。 （担当：柳／倉） ・体操の準備をしておく。 （担当：栗）

13	交流グループ活動① (アイスブレイキング)	①交流グループ活動を始めることを伝える。 ☆韓国人グループに大学院生（日本人または留学生）が 1 or 2 人加わり行う。 ②交流グループになって座る。(院生も入る。) ③院生に自分たちのグループ名を伝える。 ④全体にグループ名の紹介をする。	・ppt を使い説明する。 (担当：栗／西・倉) 仮）☆ 韓 4 人＋日 1 人×2 韓 3 人＋日 1 人×2 韓 3 人＋留 2 人×2 (お茶 7 人、同 1 人)
		⑤全員で体操（韓国のラジオ体操）をする。 ⑥体操シートを配り、穴埋め問題をグループで考える。(動作の空欄は 3 つ、語彙も含む。) ⑦先にできたグループ 3 つほど前に出て、体操の順番を並べ替える。 ⑧全体で回答した学生の答えを見ていきながら、正解を ppt で確認する。	・担当者は前に出て行う。 (担当：張) ・全体シートと動作の絵 1 セットを各グループに配り、WB に①②③と順番を書いておく。 (担当：柳・倉)
3	交流グループ活動② （流れの説明）	①各グループで、あるテーマについて話してもらうことを伝える。 ②活動作業の手順を説明する。 1) 紙の真ん中にテーマを書く。 2) テーマのイメージを小さい紙に書いて貼る。 3) 小さい紙を関係のあるものごとに整理分類する。 4) 全体発表のための発表準備をする。 ③テーマを発表する ☆「韓国人の男性のイメージ」	・ppt を使い説明する。 (担当：栗／西・倉) ・付箋は 1 枚に一つ書き、何枚も書いて OK ・出来上がった模造紙の例を提示する。 ・グループごとに模造紙、付箋、マーカーを配る。 (担当：張・柳)
2		④活動に中で使う会話表現を簡単に提示し、会話例を実演する。 ☆感想／意見述べ、理由の表現など	会話表現を ppt で提示し会話例を実演する。 (担当：栗／西・倉)
20	活　動	⑤各グループごとにグループ活動を開始する。 ⑥内容がまとまったら、発表準備をする。	
12	発　表	⑦先ほど前に出なかった 3 つのグループが全体発表を行う。 ☆持ち時間は 3～4 分　3 グループ×4 分=12 分 ☆時間があれば質疑応答の時間を少し設ける。 ☆時間がなければ、次に全体で模造紙めぐり（グループ訪問）を行うことをアナウンスし、そこで受け付ける。	・発表進行 (担当：西・倉) ・発表が終わったグループまた発表しないグループの模造紙は壁に貼っていく。 (担当：柳・張)
10	グループ 訪　問	⑧他のグループの作品を見て回り、その場でいろいろ質問するように伝える。 ⑨グループを 2 つの班に分け、先に見て回る班と残って自分達の作品を説明する班になってもらう。 ☆見て回る 5 分、説明 5 分	・5 分経ったら、グループ内で交代するようアナウンス
5	まとめ	①1 日の授業内容を振り返り簡単にまとめる。 ②振り返りシートに記入する。	・振り返りシートを配り、回収する。 (担当：柳・張)

第 2 日目

～分	流れ・テーマ	活動内容	備考
授業前		☆リラックスした雰囲気を作るため日本の音楽をかけておく。	・名札を配る。 ・机／機材の最終チェック
2		①全体目標と自己目標を確認する。 ②1 日目の授業内容を簡単に復習する。 ③2 日目のスケジュールを伝える。 ・国別グループ活動 ・韓中、韓日交流グループ活動 ・各グループ発表 ・内容に基づき、全体ディスカッション	・ppt を使用して説明する。 (担当：西・倉)

3	国別グループ活動 (流れの説明)	①交流グループ活動を始めることを伝える。 ②国別グループごとに座る。 ③手順を伝え、テーマを発表する。 ☆テーマ「素敵な女性」 （全体 Q-A あり。少し前振りをしてイメージを膨らませておく。） 1) 各自イメージを付箋に書き、机に並べる。 2) グループ内で、同じ内容の付箋はどんどん重ねて貼り、まとめてみる。 3) 国別＆グループごとにどんな感じになったか簡単に発表する。（わかりやすいように多いものベスト 3 を出ししてもらう。） 4) 全体で国ごとの特徴を共有する。	・ppt で、手順をわかりやすく説明する。 （担当： 西・倉）
10	活　動	④グループで作業を行う。 ・韓国 3 or 4 人×6 チーム ・日本 4 人×2 チーム→後に 2 人×4 チームへ ・中国 3 人 1 チーム→後に 1 人／2 人の 2 チームへ 注）日本人＆留学生グループはイメージする時に各自、全く同じ付箋を二つ作り、グループイメージを二つ作り上げる！！	・グループごとに付箋、マーカーを配る。 （担当：張・柳）
8	発　表	⑤グループごとに発表する。 →WB に国別＆グループごとに板書する。 ⑥全体で国ごとに特徴を共有する。	・特徴をあげつつも、過度に意識することは避け、ステレオタイプを作らないよう注意！ ・WB に板書する。 （担当：柳）
2	韓中、韓日 交流グループ活動 (流れの説明)	①韓中、韓日交流グループ活動を始めることを伝える。 1) 混成グループになって、「素敵な女性」を各グループで、もう一度考えてもらうことを伝える。 ②手順を説明する。 1) 院生が学生のグループ入り、韓中、韓日のグループになって座る。 ☆その時、院生は先ほど考えた国別グループの付箋を持って行く。 2) 昨日と同じ手順で、一緒に一つの模造紙を作ることを伝える。 3) 韓中、韓中の共通点や差異点を意識し、話し合いながら模造紙をまとめる。 4) 発表ができるように準備する。	・ppt で、手順をわかりやすく説明する。 （担当： 西・倉）
15	活　動	③各交流グループで作業を行う。 ④発表準備をする。	・各グループをまわりサポートする。 （担当：西・倉・張）
12	発　表	⑤各グループで発表を行う。 ☆持ち時間は約 2 分（6 グループ×2 分）	・発表進行 （担当：西・倉）
7	ディスカッション	⑥発表内容に基づき簡単な全体ディスカッションを行う。	・進行 （担当：西・倉）
8	模造紙めぐり	⑦他のグループの模造紙をランダムに見てまわる。	・全体で自由に見て回る。
	一言感想	⑧学生、院生ランダムから一言感想をもらう。	・進行 （担当：西・倉）
3	まとめ	①2 日間の授業内容を振り返り簡単にまとめる。 ②全体振り返りシートに記入する。	・振り返りシートを配り回収する。 （担当：柳・張）

4. 授業内容

4.1 授業日時

・2月16日（月） 第1日目
11時20分～12時30分（70分授業）
・2月17日（火） 第2日目
11時20分～12時30分（70分授業）

4.2 場 所

・韓国 ソウル 同徳女子大学校 崇仁館 601号室

4.3 参加者

・学生
同徳女子大学日本語科 20名
・交流グループ活動協力者
お茶の水女子大学 合同教壇実習参加院生 7名
同徳女子大学 合同教壇実習参加院生 5名

4.4 内 容

第1日目は、始めにオリエンテーション行い、授業の流れの説明やクラス全体目標、および自己目標を確認した後、アイスブレイキングとして韓国の「国民体操」を参加者全員で行った。各グループで体操に関するクイズに答えるなど、身体を使い楽しく、リラックスした状態で、その後の主活動である交流グループ授業に移った。主活動では大学生と大学院生が韓日中の混成グループになり、「韓国人男性に対するイメージ」をテーマに話し合い、最後にグループごとに発表を行った。

第2日目は、1日目の授業後のフィードバック（ジョイントゼミの詳細は6にて後述）を受け、韓国・日本・中国の文化の異同をより明確に出すことができるよう、教案を修正した。授業の流れとしては、1日目と同様クラス全体の目標を共有した後、まず国ごとにグループで「素敵な女性」というテーマで話し合い、発表を行った。クラス全体で各国の特徴や類似点を共有した後、混成グループとなり、再度「素敵な女性」について話し合いを持った。最終作品として完成したグループの模造紙を発表し、そのグループごとの特徴を全体で共有した。

5. 学習者の感想

授業後に行ったモニターシートは、「授業について」と「自己評価」に関する計7（2日目は8）の質問項目に自由記述と5段階評定で回答するものである。「授業について」は、①今日はどんな活動をしましたか。②その活動でどんなことを学びましたか。③またこのような活動に参加したいですか。理由も書いてください。(2日目のみ)の3項目。「自己評価」は、①日本語をたくさん使えた。②グループ活動に積極的に参加できた。③交流を通して、グループメンバーのいろいろな考えや文化を理解できた。④これからの勉強に役立つことが見つけられた。(具体的にどんなことか書いてください。)⑤自分の目標はどのくらいできましたか。の5つの項目から成っている。結果は以下の通りである。

5.1 授業の認識と気づき

＜1日目（2008年2月16日）19名回答＞

・韓国と日本の男性の差や韓国をどのように思うのかがわかった。
・知らない単語も習えて日本人に体操を紹介し、韓国男性のイメージを日本人とともに日本語で話す時間になった。
・韓国人と外国人との視覚の差があり、楽しい活動を通して言語と交流を同時に経験した。
・韓国男性の多様なイメージが分かった 日本人が思う韓国男性のイメージが分かった。
・日本人が思う韓国人のイメージに対して習った。
・身体の日本の表現や男性イメージを考えるために形容詞を考える機会になった。
・多様なイメージと考えを聞いて、日本人と韓国人の思いを比較して見ることができた。
・他の文化 日本人の視覚 韓国人と日本人の思うイメージが違うことが面白く、日本語の表現についても分かった。
・新しい言葉（5名）
・日本人がよくつかう新しい単語がわかった。
・様々な抽象的単語
・あることに対して日本語で説明する方法、ある考えについてなぜそう考えるのか、理由の話し方を習った。
・外国人がどのように思うのか、私たちとどのように違うのか、理由などを説明する時に使う日本語
・韓国男性のイメージに多少の差があることを感じた。
・体操と関連した身体部位を話す言葉

＜2 日目(2008 年 2 月 17 日)18 名回答＞

・それぞれの国の考えの差と、その中の共通性　同じように考える部分、異なって考える部分が分かった。
・考えることがずいぶん違うこと、又共通点もあるということがわかった。
・韓国、中国、日本の文化の共通性と差がわかった。
・韓中日が素敵な女性に対して思うことが少しずつ違うことがわかった。
・韓国、中国、日本の認識の差　文化によったイメージが国別に少しずつ異なることがわかった。
・同じことをイメージする時少しずつ異なることを感じた。
・新しい単語、他の国との考えの差文化の差
・韓国、日本、中国の思考の差
・各国の文化理解
・韓国、中国、日本での韓国女性に対したイメージがわかった。
・各国のイメージがわかった
・「日本人は配慮をよくする」日本語だけでなく文化交流もできた。
・韓国、中国、日本の多様な意見が授業を通してわかった。多くの日本語の単語を習った。
・多くの単語に接することができた。

5.2　次回授業への参加希望の有無とその理由

・参加希望　16 名　・無回答　2 名

・差の中で共通点を探す面白みもあり、多くの話をすることができるため。
・まだ足りない部分が多いから、このような活動に参加したい。
・会話と同時に文化を理解できる授業だと思い、もっとやわらかい雰囲気で考える機会があったらもう一度参加したい。
・学校での会話授業は、日本語で話す機会があまりないため。
・他国の人と交流すること、自身の考えを外国語で話す点がいいため。
・非常に面白くて役立った。
・他の国の人と交わる機会を通して、新しい事を習うことができるため。
・互いの考えを感じ、習えるため。
・現地の人と話す機会がほとんどなく、同じ活動することが楽しい。
・直接考え、動き、話す点が良かったため。
・イメージを出す仕方が、面白く互いの考えの差を易しく比べることができるため。
・負担なく楽しく習うことができるため参加したい。
・素敵な女性という主題が普遍的で、特殊性を発見するのに興味を覚えた。
・外国人の意見は、私たちと違う点が多いため、その国で重要視することが知ることができるため。
・その国の文化理解にも役立つため。各国の多様な意見と考えを共有し、習うことが良かったため。
・日本語だけでなく他の国との文化交流もでき楽しかったため。
・韓国人が思うイメージと日本人が思うイメージが違うことが面白かった。
・日本語表現に対してももっとわかるようになったため。

5.3　自己評価

①日本語使用度

	1	2	3	3.5	4	4.5	5	合計
1 日目		5 名 (26%)	6 名 (31.2%)	1 名 (5.3%)	3 名 (15.8%)		4 名 (21.1%)	19 名 (100%)
2 日目		3 名 (16.7%)	7 名 (38.9%)		4 名 (22.2%)		4 名 (22.2%)	18 名 (100%)

②積極的参加度

	1	2	3	3.5	4	4.5	5	合計
1 日目		1 名 (5.3%)	7 名 (36.8%)		8 名 (42.1%)		3 名 (15.8%)	19 名 (100%)
2 日目			2 名 (38.9%)	1 名 (11.1%)	8 名 (44.4%)		6 名 (33.3%)	18 名 (100%)

③交流を通しての文化や考え方への理解度

	1	2	3	3.5	4	4.5	5	合計
1 日目			1 名 (5.3%)	1 名 (5.3%)	10 名 (52.6%)		7 名 (36.8%)	19 名 (100%)
2 日目					2 名 (22.2%)	1 名 (5.6%)	15 名 (83.3%)	18 名 (100%)

④今後の課題の発見度

	1	2	3	3.5	4	4.5	5	合計
1 日目		5 名 (26%)	6 名 (31.2%)	1 名 (5.3%)	3 名 (15.8%)		4 名 (21.1%)	19 名 (100%)
2 日目		3 名 (16.7%)	7 名 (38.9%)		4 名 (22.2%)		4 名 (22.2%)	18 名 (100%)

④に対する記述

＜文化や考え方に対する意見＞
・文化に対する理解（3 名）
・文化を習うのによい。
・他の国の人の考えを少しでもわかり、その国の人との心理的部分について納得できるようになった。
・日本語を習う学生として日本人の全般的な考えが分かって良かった。
・他の国との文化比較に関心を持つようになり、勉強をもっとしてみたくなった。
・各国の文化の差を分かる機会になった。
・文化に対してもっと勉強することがよいと思った。
・他の考えを聞きながら、物事を広く考えることを習った。考えに差があって面白かった。（2 名）
＜語学面に対する意見＞
・やっぱり聞いて話すことが大切だとあらためて感じた。
・まだ足りないが、少しは恐れがなくなった。
・多様な日本語表現を楽しく習うことができた。
・会話に対して自信がついた。（5 名）
・日本語直訳ではわからない生活の日本語がわかった。
・思ったように表現できない時、どんな部分ができないのかがわかった。
・初めて体操をしたがそれがぎこちなさをなくし、学習に役立った。
・日本人とたくさん話す機会が多くて良かった。
・日本人と積極的に話すことできた。
・日本語会話で「ん」の正しい使い方がわかった。
・会話する時、自由に話せる機会になった。
・テーマに合う単語をいろいろ習えた。新しい単語を学べた。

⑤自己目標達成度

	1	2	2.5	3	3.5	4	4.5	5	合計
1 日目		5 名 (26%)		6 名 (31.2%)	1 名 (5.3%)	4 名 (15.8%)		4 名 (21.1%)	19 名 (100%)
2 日目			2 名 (11.1%)	4 名 (38.9%)	2 名 (11.1%)	5 名 (22.2%)		5 名 (22.2%)	18 名 (100%)

6. ジョイントゼミでの振り返り

教壇実習の振り返りとなる午後のジョイントゼミでは、本授業に対する様々な指摘がなされ、授業担当者らの考えが至らなかった多くの改善点や気づきを得ることとなり、大変有意義なものとなった。

＜1 日目＞

【体操】

・「わきばら」という単語が難しく、そのために電子辞書を使う学生が出てしまい、日本人との交流、日本語によるコミュニケーションが遮断されてしまった。
・リラックス、親しくさせるためにもう少し工夫が必要だった。

【グループ活動】

・コミュニケーションできなかったグループがあった。
・学生が主体的になっていなかった。
・もう少し考える時間が必要だった。
・フィードバックができていなかった。

【テーマ「韓国人男性のイメージ」について】

・個人的なイメージしか出てこなかったのではないか。
・何を期待したテーマだったのかよくわからない。
・答える側にとっては困るテーマだった。

【その他】

・会話表現を PPT で提示する意味はあったのか?

【今後のために】

・目標が立てられるように、学習者と一緒に組み立てる必要がある。
・提示の仕方をもっとわかりやすくする。
・活動の流れ、つながりが見えなかったので、簡単に活動を整理する。
・日本と韓国が似ているようで違うというところに気づかせる。
・今回のことを復習して、いらないところは削り、教師がある程度主導するべき。道を作る。
・教師は仕掛け役であるので、すべての流れを作っておくことが必要。

＜2 日目＞

【テーマ「素敵な女性」について】

・「素敵」という単語には文化的な要素が含まれている。
　→　韓国「偉い、立派な」／日本「おしゃれ」／中国「完璧な、外見」というように意味が変わってしまう。
・今日のゴール、目的意識が見えなかったので、何のためのテーマ、活動なのかをもう少し具体的に考えるべきだった。
・テーマについて、教師が知り尽くしていなければならず、文献を持ち寄って、学生の傾向を捉えてからするべきだった。
・授業は偶発的だと、「あー楽しかった」で終わってしまうので、学校でする場合には、もっと予測することが必要。
・理想は大事だが、失敗がつき物。工夫や試行錯誤が必要。

2 日目のジョイントゼミは、前日の授業よりは全体的に好評価だったが、テーマ設定の問題の指摘がなされ、あらゆるテーマについて調べつくした上で、設定すべきだったという結論に至った。

7. おわりに

今回の授業は、教師側の担当者全員が明確な意図や目指すべき最終地点をきちんと把握していなかったため、文化理解への気づきを深めることができず、社会的協調性の育成も交流ゲストの院生に助けられて何とか乗り越えた部分が大きく、目標達成には至らなかった。単なる文化比較に終わらず、学習者が各国文化の異同の探求のプロセスを踏めるような授業作りが必要であり、そしてそれを協働でより深く解明していくことで、多文化を受容し、連体感や協調性も生まれるのではないだろうか。このようなことまで担当者が考慮しきれていなかったことに、今回の授業の反省は集約されるように思われる。

今回は準備期間も少なかったため、まさにメンバー同士の濃密な交流と協働作業を短期間に行うこととなり、そしてそれはお互いの異同を知り、意見をぶつけ合うことで深く理解し、連帯感を生むことになった。これと同じような体験を学習者に授業で味わってもらうことができないだろうか。学習者の感想文において「各国の多様な意見と考えを共有し学べるのがよかった」や「素敵な女性という普遍的なテーマで（それぞれの）個性を発見できて興味深かった」などという意見も見られ、交流グループ授業の有効性や期待は決して少なくないと言える。その気づきや学びを深めるための授業作りを今後もメンバーで協力して、考察し続けていこうと思う。

各担当者の感想

合同授業実習を振り返って

倉持　香

今回、同徳女子大学で実習をすることになり、研究分野である協働学習と交流を取り入れた授業展開を考案し担当の 4 人で力を合わせ授業を行った。毎晩遅くまで試行錯誤しながらそれぞれの教育に対するビリーフを基に話し合い、計画や準備をしての本番であった。

普段、大学で講義をしているが、今回は指導教授や有名な先生たちの前だったこともあって、緊張してしまったが、学生の反応は悪くはなく授業に積極的に参加し楽しんでくれたように感じる。もちろん、授業として不十分なところは山ほどあり、経験のなさや力不足の点は多々挙げられるが、日本人と韓国人との交流を通した協働学習は可能であり、教師の準備次第で、

教室といった限られた空間でも、いくらでも、広がりをもった授業をすることができることを実感した。

残念なことは、授業後に、学生たちと授業に参加してくださった日本人大学院生が、授業を通して、どう感じたかについて、詳しいフィードバックと意見交換の時間をもてなかったことである。そのような場を設けることで、反省と気づきの時間になり、さらに今後の課題につながっていけたと思われるが、時間の関係上、そういった詳細な分析までに至らなかった。

今後、このような日本韓国での共同の教育実習を実施し、普段の悩みや考えを率直に言い合える場を設けることができれば、さらによい効果的な授業展開を共に計画し実践していけるのではないかと思われる。

教壇実習を振り返って

同徳女子大学大学院　修士課程　西岡　麻衣子

多文化理解を目指した交流学習の研究を試みている筆者にとって、今回の教壇実習とジョイントゼミは多くの気づきを得られた貴重な体験となった。文化理解を目的とした交流型の学習は、参加者へ自他文化の気づきや理解を促す貴重な直接体験学習であるとされ、外国語教育、異文化間教育、国際理解教育などの分野において様々な試みがなされており、その有効性も多く検証されている。しかし、そのような交流学習も実践のみが先行し、イベント的な色合いが強く、楽しいだけで学びがないという批判がなされることがあり、今回の授業も筆者を含む担当者側の理論的配慮の不足や、タスク設定のミス、指導の曖昧さが露呈した形となり、反省点の多いものとなった。その反省点から導き出される今後の改善点は以下の３つである。

(1) 文化の異同の気づきを深める振り返りの設定
(2) 文化の構造的理解を促す問題解決型タスクの設定
(3) 学習者の学びや気づきを最大限に引き出す教師の役割の再考

今回の授業は、学習者へ文化の異同に関する気づきを若干もたらしたようだが、なぜそのような異同が生まれるのかの探求は成されなかったため、文化の構造的な理解まで至らせることができなかった。そのような文化理解までには、何度も振り返りの作業を行わなければならないため、短期間の交流では難しいところも多いが、個々の得られた気づきを全体で共有し、その気づきの探求や振り返りの重要性を気付かせることは必要だったと思う。今後、振り返りの時間を十分に考慮した授業が望まれる。

また、そのような文化の構造的理解を促すタスクとして、異文化トレーニングを参考に、コミュニケーション・スタイルや価値観の異同、言語・非言語コミュニーションの異同などを取り上げ、その背景に潜む社会システムや歴史、環境の違いなどへと発展させるのも面白いと思う。また、多国籍企業を想定し、商品開発に取り組むなどの協働作業を行い、合意点を探ることの難しさを感じつつウィンウィンの関係を築いていく楽しさが体感できるような問題解決型タスクの設定が望まれる。今回のような初中級レベルの単発交流グループ授業においては難しい点も多いが、事前に参加者の関心を促すようなリソースの提供などを行えば、上述のテーマでのタスクも実行可能であろうと思われる。

以上のような授業を行うためには、教師は学習者が主体的に学べる環境作りに重点を置き、援助者としてファシリテーターに徹することになるが、タスクの進め方の説明が曖昧であったり、一連の作業の中で極端に放任することは避けるべきであろう。先の気づきの共有や、振り返りが大変重要になるため、その気づきの解釈の促進を促す問いかけなど、各学習者やグループを注意深く観察しつつ、その介入の度合いを臨機応変に変えつつ、対応することが求められると思う。

最後に、今回、お茶の水女子大学の院生の皆様の授業見学をさせていただき、大変学ぶことが多かった。最も印象深かったのは、入念な準備を経て理論に基づいた仮説の検証を徹底して行い、新しい理論の生成へ挑もうとしている姿勢であり、その意気込みを目の当たりしたことであった。このような研究者として、また教育者としてのあるべき姿勢に、自身を反省し、大変よい刺激となった。また PPT を効果的に使用した歴史の授業は斬新で、学習者の動機付けを高めるのに成功しており、今後自分の授業にも取り入れたいと思える要素を数多く吸収することができた。今後も様々な分野との連携を強く望むとともに、このような場を提供してくださった両大学の先生方、そして急遽グループ活動に参加したくださり、様々なご意見をくださったお茶の水女子大学の院生の皆様、同徳女子大学の院生の先輩方に感謝を申し上げたい。

海外教壇実習に参加し

同徳女子大学大学院　修士課程　柳川　紘子

今回、お茶の水女子大学の大学院生とともに、教壇実習に参加したことで、自分の教え方について振り返ることができ、また大学院生同士の交流もでき、とても有意義な時間を過ごすことができました。このような機会をいただき、お茶の水女子大学の皆様に感謝いたします。

1)　授業準備から教壇実習まで

私は、授業担当者が思い描く授業をサポートできるようにアシスタントとして、参加いたしました。はじめに韓国の国民体操を行って、リラックスするというのは普段の授業ではなかなかできず、意外と反応もよかったと思います。その次のグループ活動では、「韓国人男性のイメージ」というテーマ設定に大きなミスがあり、個人的なイメージしか出ず、主旨が見えないものとなってしまいました。交流を掲げたグループ活動であったのにも関わらず、日本人の大学院生とうま

く話し合えなかったグループもありました。そのため、ジョイントゼミでは、任せっきりにするのではなくある程度、教師が主導する必要があるとのご指摘を受け、次の授業では、もっとわかりやすく進めることができたと思います。

1 日目のジョイントゼミで、テーマ設定と実際にテーマについてのイメージを書き出すべきとのご指摘をいただき、準備の段階で、テーマを何にするかに時間を割き、悩みました。結局、イメージが出やすかったのが「すてきな女性」というテーマでしたが、「すてき」という意味、その翻訳が日本語・韓国語・中国語に差があるということ、「すてき」という単語には、プラスのイメージしか出ないということで、もっと工夫や試行錯誤が必要だったということを再認識しました。

今回、同徳側は準備期間が短く、準備不足で上手くいかなかった点も多かったので、話し合いの時間や模擬授業の時間をもっと持つべきだったと反省しています。そして、急遽グループ活動に参加していただくことになったお茶の水女子大学院の大学院生の皆様にこの場をお借りして、お礼申し上げます。

2)　教壇実習を見学して

お茶の水女子大学側の教壇実習は、準備を入念にされていて、学ぶべきことがたくさんありました。1 日目はあいづち表現で、気づきから理解させ、練習するという流れがスムーズだったように感じました。このような気づかせるための映像教材が充実していれば、あいづち以外にも応用できるのではないかと思います。

2 日目の実習は、文末表現の「～んだ」では、スライドを見せながら、「～んだ」の使う場面を理解させるといったものでした。ジョイントゼミでは、スライドよりビデオのほうがいいという指摘もありましたが、スライドのほうが、授業担当者が意図したようにいろいろな情報を与えず、記憶にも残りやすく、4 コマ漫画のように流れがわかりやすいのではないかと思いました。授業では時間上、導入から練習までしかできませんでしたが、実際に定着できているのかまで確認できたら、1 つの授業が完結するのではないかと思います。

3 日目の歴史の授業では、教師主体の授業でしたが、パワーポイントを生かし、先生の演技力で、メリハリのあるわかりやすい授業だったと思います。教授経験がないながらも、染井さんの授業は強く印象に残りました。

お茶の水女子大学の大学院生の授業を見学し感じたのは、演技力、イラストを描く能力、パワーポイント作成能力、通訳など、一人ひとりの能力を最大限生かすことが大事だということ。3，4 人というグループで実習することの意味は、そこにあるのかもしれません。実際の授業では 1 人で行わなければなりませんが、そのような能力を日々向上していくことが、教師には必要だと思います。

お茶の水大学・同徳女子大学合同教壇実習に参加して

同徳女子大学大学院　修士課程　粟飯原　美智

今回の教壇実習はお茶の水女子大学、同徳女子大学それぞれが普段の日本語の授業ではなかなかできない試みが行われ、いい刺激になったと感じています。まず今回、同徳女子大学の大学院生の授業では学習者が日本人との交流を通して何か自ら気づければいいと考え授業が組み立てられていました。 近年、韓国人日本語学習者の多くは留学、ワーキングホリデー、インターンシップなどの理由で日本滞在暦があり、日本語がかなり流暢に話せる学習者も大勢います。これからますます日本人と韓国人の交流もいろいろな形で増えていくと考えられます。しかし、いざ日本人と付き合ってみると、親切だったはずの日本人が冷たいと感じたり、悪気なく話した言葉で日本人を怒らせたりなど…学習者もさまざまな苦労あるようです。日本語が上手に話せるだけではコミュニケーションがうまく取れないということを学習者自身も感じているようです。同じ東アジア圏ということもあり、さまざまな面で共通点も見られるだけにギャップが生じたときの衝撃はより大きいようです。しかし、普段の日本語の授業では文法を会話に運用する能力を伸ばすことに精一杯で、なかなか日本語を取り巻く深い部分まで触れることが難しいのが現状です。そこで、日本人と交流することで日本語を使いながら、日本語の会話練習では終わらない何かを学習者自身がつかんでくれることを考えて、2 つのテーマを与え日本・韓国・中国の考え方などを話し合うという授業の内容でした。1 つのテーマでは、日・韓・中が根本的なところからテーマに対する理解が違っていたりすることもありましたが、今回の経験を生かして発展させられるのではないかと感じました。対象が女子大生ということもあり、女子大生の情意面も考慮に入れグループ作りも考えられていました。お茶の水女子大学の大学院生の皆さんもグループに快く参加してくださり、学習者もいい交流の機会になったと感じています。

お茶の水女子大学の大学院生の皆さんは日本語と歴史教育をされました。日本語も歴史教育も共通して映像や絵、写真などが工夫して作られていたことがとても参考になりました。インターネットも普及も進歩もいち早く進められた韓国では映像や写真などはありふれた教材です。しかし、大学院生の皆さんが自ら映像に出演したり、印象に残るような面白さを作り出していたことは本当に勉強になりました。また、韓国と日本の歴史教育というといつも決まって焦点に当てられるのが戦争時代についてですが、今回は戦争以前の韓国と日本の武士を比べてみることで、韓国と日本の歴史ではいつもスポットライトを浴びていない歴史を知ることができとても新鮮で

した。日本と韓国は戦前は交流も盛んに行われていた時代もあります。いろいろな問題は抱えていますが、多くのことをいろんな面から知ることは理解に繋がっていくと感じました。今回、日本語と歴史教育をしたことで、今後いろいろな分野と連携して大きな理解へと繋げていけるという期待を持ちました。

＜注＞

1) 総合的日本語教育とは、「言語の認知的意味の理解と表現力を養うために、言語文化行動を成す諸要因を総体的に教育することであり、言語文化行動の文化を取り入れた言語教育と、言語を取り入れた文化教育の統合によって行われる方法である。」李（2004）

2) 認知的意味の理解とは、「言語行動から読み取れるすべての情報を意味とし、言語を文化の総体として捉える」ことを指す。李（2007）

<参考文献>

李徳奉（2004）「総合的日本語教育の位置づけーその認知的意味属性を中心にー」『日本語教育国際研究大会予稿集』昭和女子大学、pp.171-176

李徳奉（2007）「認知理論に基づいた総合的日本語教授法」『認知言語学会論文集第 7 巻』日本認知言語学会、PP.565-572

이희도（1997）「다인수 학습에 최적한 교수-학습모형탐색 소집단 협동학습을 중심으로-」교육학연구,25(1),pp293-318

国際交流基金関西国際センター（2008）『日本語ドキドキ体験活動集』凡人社

ジョージ・ジェイコブズ他（2005）『先生のためのアイディアブックー協同学習の基本原則とテクニックー』日本協同教育学会　pp.8-9

中村律子（2005）「No.44　みんなどう思う？」『人と人とをつなぐ日本語クラスアクティビティ 50』　アスク　pp.108-109

水谷修／李徳奉編（2002）『総合的日本語教育を求めて』国書刊行会

＜参考サイトアドレス＞

国民生活体育協議　http://www.sportal.or.kr

くらもち　かおる、にしおか　まいこ、やながわ　ひろこ、あいはら　みち、ちゃん　へじょん
／同徳女子大学校大学院